学校番号	３０８

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「日本史Ａ改訂版」　（山川出版社）						
副教材等	帝国書院「図説日本史通覧」						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

高校の日本史は、中学校までに学習した日本史とは質も量も大きく異なる。特に、本校では大学進学に向けて、２年次から高度な内容を扱っていくので、しっかり学んでほしい。

2　学習の到達目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史事象や歴史構造に問題を見い出し、それを分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりすることができる。また、それを表現することができる。	歴史的事実や歴史の構造について、自らの力で調べ、まとめることができる。真理を探究する方法を身につけている。	自ら調べた内容をもとに歴史的事実や歴史の構造について知識として身につけ、理解している。
評価方法	定期考査 （自由記述など） 提出物、アンケート 授業参加状況など	定期考査 (論述問題など) 提出物、アンケート 授業参加状況など	定期考査 (資料の読み取りなど)など	定期考査 (知識確認問題など)など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	私たちの時代と歴史	現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から,近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して,歴史への関心を高め,歴史を学ぶ意義に気付かせる。	○	○	○		a: 日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしているか。 b: 歴史事象や歴史構造に問題を見い出し、それを分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりすることができる。また、それを表現することができるか。 c: 歴史的事実や歴史の構造について、自らの力で調べ、まとめることができる。真理を探究する方法を身につけているか。	提出物、アンケート、授業参加状況など
1学期～2学期	近代国家の形成と国際関係の推移	(ア)近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出,文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治 政府による諸改革に伴う社会や文化の変容,自由民権運動と立憲体制の成立に着目して, 開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。 (イ)条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化,政党の役割と社会的な基盤に着目して,国際環境や政党政治の推移について考察させる。	○	○	○	○	a: 日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしているか。 b: 歴史事象や歴史構造に問題を見い出し、それを分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりすることができる。また、それを表現することができるか。 c: 歴史的事実や歴史の構造について、自らの力で調べ、まとめることができる。真理を探究する方法を身につけているか。 d. 自ら調べた内容をもとに歴史的事実や歴史の構造について知識として身につけ、理解している。	定期考査、提出物、アンケート、授業参加状況など
	近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢	(ア) 産業革命の進行,都市や村落の生活の変化と社会問題の発生,学問・文化の進展と教育の普及,大衆社会と大衆文化の形成に着目して,近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。 (イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場,国内の経済・社会の動向,アジア近隣諸国との関係に着目して,二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。	○	○	○	○	a: 日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしているか。 b: 歴史事象や歴史構造に問題を見い出し、それを分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりすることができる。また、それを表現することができるか。 c: 歴史的事実や歴史の構造について、自らの力で調べ、まとめることができる。真理を探究する方法を身につけているか。 d. 自ら調べた内容をもとに歴史的事実や歴史の構造について知識として身につけ、理解している。	定期考査、提出物、アンケート、授業参加状況など

2学期	近代の追究	近代における政治や経済,国際環境,国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から,産業と生活,国際情勢と国民,地域社会の変化などについて,具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して,歴史的な見方や考え方を育てる。	○	○	○		a: 日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。 b: 歴史事象や歴史構造に問題を見い出し、それを分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりすることができる。また、それを表現することができる。 c: 歴史的事実や歴史の構造について、自らの力で調べ、まとめることができる。真理を探究する方法を身につけている。	提出物、アンケート、授業参加状況など
2学期～3学期	現代の日本と世界	第二次世界大戦後の政治や経済,国際環境,国民生活や文化の動向について,現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。	○	○	○	○	a: 日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしているか。 b: 歴史事象や歴史構造に問題を見い出し、それを分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりすることができる。また、それを表現することができるか。 c: 歴史的事実や歴史の構造について、自らの力で調べ、まとめることができる。真理を探究する方法を身につけているか。 d. 自ら調べた内容をもとに歴史的事実や歴史の構造について知識として身につけ、理解している。戦後の世界と日本の変化の過程を、ドルショックやオイルショックにいかに対応し経済大国への道を歩んでいったか、今日の資源エネルギー問題についても、事実に基づいて考察し、その知識を身に付けさせる。	定期考査、提出物、アンケート、授業参加状況など

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。